

★去る3日に第4回目の団体交渉開く～来週に夏期一時金回答が予想されます★

黒字が5年続いた今こそ、一時金の大幅引き上げを断行すべき!

財政状況は確実に好転しているにも関わらず、大学当局は「補助金ありきで見かけ上の黒字」「他大学と比べて体力がない」ことを再三強調

組合だより

2022/6/8

東京女子医大
労働組合

自らの要求実現と医療改善のために
貴方も労働組合へ加入しましょう!



貴方の加入が労働組合の力を強めて、賃金・労働条件の改善につながります!



去る3日に、夏期一時金を中心とする第4回目の団体交渉が開かれました。以下、交渉内容の主旨を報告します。

▲夏期一時金について▲

【組合】初めに、令和3年度の収支決算の最終結果が出たなら示してもらいたい。

【大学】前回の団交では、速報として約35億円の黒字と報告したが、最終結果は約60億円の黒字となった。しかし、前年度との対比では黒字額は約22億円減少した。黒字は補助金によるもので、医療収入の大幅減で医療ベ－スとみると約40億円のマイナスである。

【組合】夏期一時金の検討状況はどうか。

【大学】昨年から述べてきた「教職員の生活を支えて、モチベーションを維持し、より良く変えていくための原動力にする」ことを重視して賃金回答も提示してきた。一時金も同様な考えを基本に今検討しているところだ。

【組合】具体的に聞くが、他大学との格差は益々広がっており、これをどう是正するか。コロナ禍の中で厳しい状況にあるとはいえ、結果として黒字を計上している。これで5年連続の黒字であり、財政状況は確実に好転している。人員不足が深刻な状況のもとで、必要人員を確保するために、今こそ一時

金の大幅引き上げが必要なのではないのか。

【大学】黒字といっても、補助金ありきで見かけ上の結果であり、先が保障されているわけではない。他大学の比較よりも女子医大の収支の事実を受け止め、全体のバランスを考えて決める必要がある。他大学との体力の違いもあり、同じ土俵では考えられない。しかし、そうは言っても教職員の頑張りには理解しており、それを考慮したうえで十分検討して結果を出したい。

【組合】「イマ変わりつつある女子医大へ」のスローガンを掲げて学内でキャンペーンを進めている。変わるためには人を増やすこと。そのためには賃金・一時金の改善は必要だ。

▲週間文春の記事について▲

【組合】4月に出た週刊文春の記事の内容で、教職員の賃金や一時金が下げられている中で、理事報酬が大幅に引き上げられている。これは大学も認めているが、教職員の感情からすると釈然としない。しかし、法人や理事会からはなんの説明もない。少なくとも理事会としての説明責任があるのではないか。

【大学】今日の交渉とは直接関係ないことであり、別途の話として改めてということになると思う。それしか今は言えない。

【平成27年度～昨年度の収支決算と賃金及び夏期一時金回答の推移】

年度	報告された収支決算	賃金回答	夏期一時金回答
平成27年度	約29億円の赤字	100%昇給	2.35ヶ月
平成28年度	約22億円の赤字	100%昇給	看2.1ヶ月、他2.0ヶ月
平成29年度	約7億円の黒字	100%昇給	看2.1ヶ月、他1.6ヶ月
平成30年度	約40億円の黒字	50%昇給	看2.1ヶ月、他1.7ヶ月
令和元年度	約48億円の黒字	50%昇給	看2.1ヶ月、他1.8ヶ月
令和2年度	約82億円の黒字	昇給なし	1.00ヶ月
令和3年度	約60億円の黒字	50%昇給	1.50ヶ月

※平成28年～平成元年の一時金は、看護師と他職種で支給率が違っていた

黒字を教職員に還元すべきです!



♥あなたも労働組合に加入しましょう♥

黙っていては何も解決しません。組合に加入して理事会に要求・声をぶつけましょう!

- 第一支部(新宿本院)【内線】38811 【直通】3357-3785 ※水・金は担当者がおります
- 第二支部(足立医療)【内線】24512 (昼休み時間可能) 【ホームページ】女子医大労組で検索